

‘隼戦闘機’ 名パイロットの思い出

旧臘旧陸軍航空隊「加藤隼戦闘隊」伝説の名パイロット安田義人さんが亡くなられたと奥様から丁寧なお知らせをいただいた。享年 90 歳だった。大東亜戦争開戦とともに、安田さんらの「飛行第 64 戦隊」は中国から南方へ展開した。時まさに戦雲急を告げる昭和 17 年 5 月 22 日、突如敵機の襲来に安田さんは戦隊長、加藤建夫中佐機ら僚機 4 機とともにビルマ（現ミャンマー）・メイクテラ基地から邀撃発進し、ベンガル湾上空で英ブレンハイム機と遭遇、激戦の末負傷して離脱帰還した。しかし、戦隊長機は武運拙く被弾、洋上で反転墜落し、加藤戦隊長は名誉の戦死を遂げた。7 度の感状を授かった加藤建夫中佐が 2 階級特進（少将）し、軍神となって当時の国民的英雄となった瞬間である。

戦後戦友とともにビルマから復員して、昭和 49 年ビルマ慰霊の旅で一緒した時、かつて隼戦闘隊の航空基地のひとつであったビルマ中部・ヘホ空港への着陸前に、プロペラ機から懐かしそうに窓外の山野を食い入るように眺めていた安田さんに「懐かしいでしょうね」と声をかけたら、「敵機を追うことに夢中で、当時は景色なんか全然目に入らなかったですよ」と微笑まれた。到着してから何気なく「でもお日様と風が懐かしい」とつぶやかれたことが忘れられない。昨夏靖国神社でお会いした時、小泉首相の騒がしい靖国参拝問題には触れず、淡々と「みんな親しい仲間は亡くなりました。開戦時のパイロットで残っているのは私ひとりになりました」と感慨深そうに話されたことが強く印象に残っている。

温厚で優しく安田さんは手柄話をひけらかすでもなく、ひとりで戦時中に一世を風靡した、戦隊歌 ♪加藤隼戦闘隊♪を作詞された田中林平さんを施設に見舞っていた。戦後 60 年が経過して、いままた安田さんも亡くなられ、終戦の年国民学校に入学した私にとっても戦後は遠くなってしまった。合掌

(近藤)